

### 3.1 被害想定の設定条件

#### 3.1.1 被害想定に用いる地震・津波のケースの選定

被害想定の対象とする地震は、地震・津波被害想定で検討した海溝型の「南海トラフの最大クラスの地震」と「南海トラフの発生頻度の高い地震」の2ケースと直下型の「中央構造線断層帯で発生する地震」と「長尾断層帯で発生する地震」の2ケースを選定した。

被害想定の対象とする津波は、香川県へ最大クラスの津波をもたらすと想定される「南海トラフの最大クラスの津波」と、一定の頻度で発生すると想定される「南海トラフの発生頻度の高い津波」の2ケースを選定した。

表 3.1.1 各地震の組合せ

対象地震	南海トラフ (L2)					南海トラフ (L1)		中央構造線断層帯	長尾断層帯	
	地震	津波					地震	津波	地震	地震
市町/ケース	陸側	③	④	⑤	⑦	⑧	宝永地震		ケース3	ケース4
高松市			○							
丸亀市		○				●				
坂出市		○				●				
善通寺市										
観音寺市						○				
さぬき市		○	○	○						
東かがわ市		○		○						
三豊市		○	●			○				
土庄町	○		○	○		○	○	○	○	○
小豆島町			○	○		○				
三木町										
直島町			○	○		○				
宇多津町		○								
綾川町										
琴平町										
多度津町		○				●				
まんのう町										

※○は各市町で用いるケースを表し、●は島嶼部で用いるケースを表す。

### 3.1.2 被害想定の項目

被害想定の項目は、建物被害、人的被害、ライフライン被害、交通施設被害、生活への影響、災害廃棄物等、その他の被害及び直接経済被害額とした。

表 3.1.2 被害想定の項目

分類	項目	分類	項目
建物被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 揺れによる建物被害</li> <li>・ 液状化による建物被害</li> <li>・ 津波による建物被害</li> <li>・ 急傾斜地崩壊による建物被害</li> <li>・ 地震火災による建物被害</li> <li>・ 津波火災による被害</li> </ul>	災害廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害廃棄物等</li> </ul>
人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物倒壊による人的被害</li> <li>・ 津波による人的被害</li> <li>・ 急傾斜地崩壊による人的被害</li> <li>・ 火災による人的被害</li> <li>・ ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による人的被害</li> <li>・ 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による人的被害</li> <li>・ 揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）</li> <li>・ 津波被害に伴う要救助者</li> <li>・ 災害関連死</li> </ul>	その他の被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エレベーターの停止</li> <li>・ <u>長周期地震動</u></li> <li>・ <u>道路閉塞</u></li> <li>・ <u>道路上の自動車への落石・崩土</u></li> <li>・ <u>交通人的被害（道路・鉄道）</u></li> <li>・ <u>要配慮者</u></li> <li>・ <u>宅地造成地</u></li> <li>・ 危険物・コンビナート施設</li> <li>・ <u>大規模集客施設等</u></li> <li>・ <u>ターミナル駅</u></li> <li>・ 文化財</li> <li>・ <u>孤立集落</u></li> <li>・ <u>災害応急対策等</u></li> <li>・ <u>堰堤、農業用ため池等の決壊</u></li> <li>・ <u>地盤沈下による長期湛水</u></li> <li>・ <u>複合災害</u></li> <li>・ <u>時間差による地震発生</u></li> <li>・ <u>漁船・船舶、水産関連施設</u></li> <li>・ 治安</li> <li>・ <u>観光被害</u></li> </ul>
ライフライン被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上水道</li> <li>・ 下水道</li> <li>・ 電力</li> <li>・ 通信（固定電話・携帯電話）</li> <li>・ 都市ガス</li> <li>・ <u>LP ガス</u></li> </ul>		直接経済被害額
交通施設被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路（緊急輸送道路）</li> <li>・ 鉄道</li> <li>・ 港湾（防災機能強化港）</li> <li>・ 空港</li> </ul>		
生活への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難者</li> <li>・ <u>帰宅困難者</u></li> <li>・ <u>物資（飲料水・食料等、燃料）</u></li> <li>・ <u>医療機能</u></li> <li>・ <u>保健衛生、防疫、遺体処理等</u></li> </ul>		

注) \_\_\_\_\_ は定性評価を行った項目を示す。

### 3.1.3 被害想定の時間帯

被害想定時間帯は、県民の生活行動を顕著に反映し、被害が甚大になると想定される特徴的な時間帯として、冬・5時、夏・12時、冬・18時とした。

表 3.1.3 被害想定算出の季節・時間帯

冬・5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。</li> <li>・ オフィスや繁華街等の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。</li> </ul>
夏・12時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスや繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災する機会が多い。</li> <li>・ 木造建物内滞留人口は、1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数は冬・5時と比較して少ない。</li> </ul>
冬・18時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。</li> <li>・ オフィスや繁華街等のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。</li> <li>・ 鉄道、道路も帰宅ラッシュに近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。</li> </ul>

### 3.1.4 重複処理の実施

建物被害は複数の要因で重複して被害を起こす可能性がある。被害要因の重複を避けるため、液状化、揺れ、急傾斜地崩壊、津波、火災の順番で被害の要因を割り当てた。

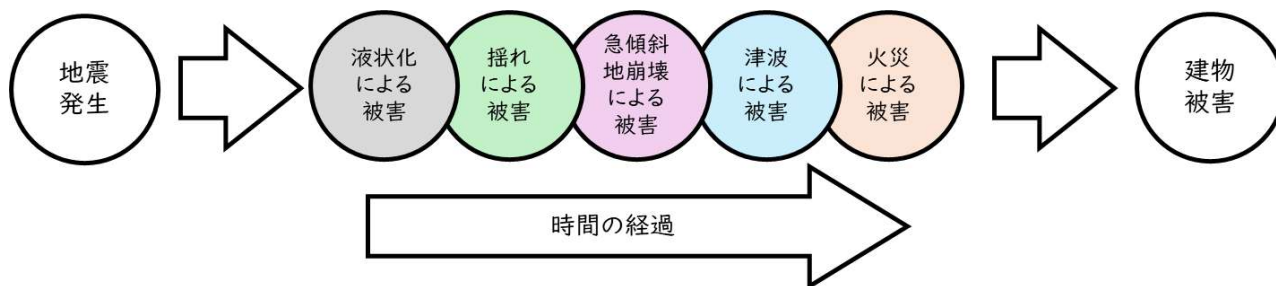


図 3.1.1 重複処理のイメージ